

低レベルのコンクリート等の廃棄物に対する考え方

- 発生量を考慮すると今後すべてを屋内保管することが現実的・合理的でないと考えられる点もあるため、改めて既発生の瓦礫等から対象に、1F構内における屋外保管も含めた保管管理のあり方を検討する必要がある。
- 短期的な課題として、減容せずに屋外保管を検討する廃棄物を特定すること、及びその特定のために必要な分析について議論を行いたい。

既発生

東京電力の考え (資料1-1)

原子力規制庁の考え

1mSv/h

約6万m³

- 屋内保管、今後濃度管理の方策を検討する必要がある。

(中・長期的課題)

- 屋内保管、今後濃度管理の方策を検討する必要がある。

約13万m³

- 減容処理 → 屋内保管
- 減容処理後の廃棄物に対して、濃度管理の方策を検討する必要がある。

(中・長期的課題)

- 減容処理 → 屋内保管
- 減容処理後の廃棄物に対して、濃度管理の方策を検討する必要がある。

数μSv/h(BG)

約18万m³

- 再利用
- それ以外は減容処理 → 屋内保管

(短期的課題)

- 再利用
- **減容せずに、屋外保管**
 - ✓ 屋外保管の線引きをする表面線量率に、濃度を関連付けるため、分析が必要
 - ✓ 減衰により、将来的に放射性廃棄物でなくなる可能性のある分類

次回会合での議論事項
・必要な分析計画

(論点)

- ✓ 廃棄物のグルーピングの可否 (発生場所、保管履歴等)
- ✓ Cs-137 (半減期30年) による汚染が大半を占めることを検証するための、Cs-137+その他核種の放射能濃度の分析
- ✓ 保管容器の表面線量とCs-137濃度の相関関係を整理するための分析
- ✓ 分析対象が、数μSv/h (BG) 以下である必要はない

今後の解体廃棄物

東京電力は燃料デブリ取り出しの準備工事に関しては少なくとも約30万m³と試算

(中・長期的課題)

- 解体時に、汚染部と被汚染部を分離することによって、減容
- 放射性廃棄物は、濃度によって管理
- **濃度(もしくは濃度に関連付いた表面線量率)で線引きし、一定以下のものは屋外保管**